

警備員教育における実技訓練の進め方

～警戒棒の中段打ちの例～

1. 模範演技を示す。

- ① 習得する演技の完成形を示す。(例: 中段打ちを実演する。)
- ② 手順やポイントを説明する。(例: ゆっくり動きながら説明を加える。)

《注意点》

※ 高い位置に立って見せたり、人数が多い場合は、全員を近くに集めて見せたりするなど、習得する演技がよく見えるように工夫をする。

2. 実際に訓練する。

- ① 安全に訓練できる広さを確保する。(例: 人数が多い場合は隊列を広げる。)
- ② 言葉で説明しながら、動作を示し、実際にその動作をやらせてみる。
(例: 言葉で「警戒棒を右側頭上に上げて…」と説明を付け加えながら、警戒棒を右側頭上に上げる動作を示して、実際に動作させる。)
- ③ 徐々に説明を減らしていきながら、繰り返し、訓練を行う。

《注意点》

- ※ まずは、手順を習得させることに注力し、手順がある程度できるようになった時点で、次に、細かい動作を修正していく。
- ※ 徐々に説明を減らしていきながら、繰り返し、訓練を行い、最終的には説明なしで動作ができるように仕上げる。

3. 成果を確認する。

- ① 号令だけ掛けてやらせてみて、成果を確認する。(例: 中段打ち用意、始め!)

《注意点》

- ※ できていないところは、再度、説明した上で、繰り返し訓練する。
- ※ 「手順」、「警戒棒の握り方」、「振り上げる位置」、「打突する部位及び方法」、「足運び」、「気合い」、「体のバランス」などに着眼する。